

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 5月 2日

事業所名 運動療育スタジオspark南茨木

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	児童1名につき、療育士1名は必ず配置し、児童の発達段階に応じて、適切な人員配置を検討しております。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	エントランス、訓練室内は、児童の特性に応じて、情報過多にならないような配慮や必要に応じて踏み台の設置を行っております。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	朝礼と終礼でミーティングを行い、課題の確認と療育の振り返りについて多くのスタッフが参画しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者とやり取りする機会を増やし、児童の発達を促しつつ、保護者の意向を反映するように努めています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		今後、検討して参ります。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	療育を想定したロールプレイやアプローチの基礎を学ぶ座学等を定期的に行い、スタッフの技術向上に努めています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	アセスメントについて、複数のスタッフで検討し、分析したうえで支援計画に生かしております。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	発達アセスメントシートを作成し、半年に1度見直しを行っております。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	児童の興味から療育を進展させ、発達段階に応じて遊びを深めていったり、興味の幅を広げていっております。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	児童の発達に応じて、個別療育とシェア療育を組み合わせながら提案しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼のミーティングにて、職員間で支援内容や役割を確認しております。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	療育後には、担当で短時間の振り返りを行い、終礼では支援内容の共有を行っております。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援の記録を毎回作成しております。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的に面談等を行い、支援内容について検討しております。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管や療育リーダーが参加し、支援機関の共有を行っています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		対象児童の受入れはありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	支援計画書や電話引継ぎを用いて、支援内容の共有をしております。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	支援計画書や電話引継ぎを用いて、支援内容の共有をしております。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		事業所間同士の交流はありませんが、公園での屋外療育で、外部児童と関わる機会を作っております。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	保護者とは、療育前と後に近況の様子を聞き取りを行い、情報共有しております。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	無理のない範囲でペアレント・トレーニングの支援を行っています。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に丁寧に説明しております。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	児発管が綿密に保護者と話し合い、支援計画にニーズと課題を盛り込んで説明しております。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	保護者との面談に加え、適宜相談に応じております。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談や苦情については、スタッフ全体で共有し、即時に対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0%	100%		定期的な会報はありませんが、掲示物・配布物で連絡事項を周知しております。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		今後は、地域の行事等交流を検討します。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	代表者が研修に参加し、情報の共有と研修をしております。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	療育中に身体拘束を行う場面はありませんが、移動時に身体・生命の危険が生じる際は、やむを得ず、制止し保護者へ説明を行います。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%		食事の提供はありません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	終礼や日報を活用して共有しております。	